

博物館だより

NO.24

SUITA CITY MUSEUM



藤ノ木古墳出土金銅製飾履（復元）

奈良県斑鳩町の藤ノ木古墳は6世紀後半の築造で、朱塗りの石棺内に太刀・剣、金銅製の冠や馬具などとともに2足の飾履が副葬されていました。大きさは38.4cmと41.7cmで、2足とも金メッキを施した厚さ1mm以下の銅板で側板と底板をつくり、全体を亀甲繫文と歩揺（飾り金具）で飾っています。（所蔵・写真提供は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館）

2005年度春季特別展

ふしぎ探検 一足とはきものー

この春の特別展は「足とはきもの」をテーマとして2005年4月23日（土）～6月5日（日）におこないます。いま、私たちは靴を普通にはいていますが、ほかにもゾウリ、ゲタ、スリッパ、サンダルなどいろいろなハキモノをはきます。日本の伝統の上に外国の要素を取り入れ、TPOに応じてうまくはきわけていると言えるでしょう。

展示の構成

今回の展示は、人間の二足歩行のメカニズムという科学を基礎におきながら、(1) 世界にはどんなハキモノがあるのか、(2) どのような環境の下でつくられ、どう改良されてきたか、(3) ハキモノの精神世界をくわえた三つの柱で構成しました。とくに力を入れたのは実際に手に取ったり、はくことのできる体験型の展示にすることでした。衣装とハキモノを身につけ、写真で撮れるコーナーをつくり、「あの人のハキモノ」という展示ではクイズ形式で、義経、坂本龍馬、樋口一葉などが何をはいていたのかを考えます。

イベント

ゴールデンウィークには、変わったハキモノをはいたり、裸足で氷や火の上を歩くという広場をつくりまします。ハキモノの機能や意味を実感するためです。

もう一つ、「最強の靴」をはいた吹田市消防本部の隊員の活動をおみせします。災害に備えた安全対策を考えるきっかけになると思います。ほかにも、おし



イラスト 安芸 早穂子

ゃれなネイル・アート、はきやすい靴をみつけるための足の計測器をおきます。

講演会

外部から専門の講師やゲストを招いて講演会を行います。通常の歴史講座や博物館トークも拡大して開催します。そのラインアップは・・・

1. 足の科学と民族学

4月24日（日）「二足歩行の秘密ーサルからヒトへ」堀江保範さん（国立民族学博物館共同研究員）の講演と、私との対談で、人間の二足歩行の特徴とメカニズムを探ります。／4月30日（土）「西アフリカで歩くこと」江口一久さん（国立民族学博物館教授）：西アフリカの大地に生きる人々の足や旅について「おはなし博士」が語ります。／5月14日（土）「足・靴・歩行とリフレクソロジー」大中咲子さん（マッサージセラピスト）：美しい楽な歩き方、足と体の健康を考えます。／5月15日（日）「足の形ーどん

な個人差があるか？」河内まき子さん（産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター主任研究員）：足の形にはどんな個人差があるか、靴との係わりをキーワードに紹介します。／5月27日（金）「靴とファッション」細長喜久代さん（大阪成蹊短期大学教授）：ファッションとは何かを考え、若人の選んだ「おしゃれな靴」を紹介します。／5月29日（日）「世界のはきものとファッション：松本敏子コレクションから」安芸早穂子さん（イラストレーター）と私で、世界の民族のはきものをもとに、講演とファッションショーをおこないます。

2. 歴史講座・博物館トーク

本館の学芸員のおこなうものです。

5月8日（日）「絵巻にあらわれたはきもの」望月直子：絵に描かれた日本人のハキモノの歴史。講演後の対談「義経は何をはいていたか」のゲストは小松左京さんです。／5月22日（日）「異形のはきもの」藤井裕之：民俗にあらわれた不思議なハキモノ。吹田市の例も紹介します。／5月28日（土）「はきものの考古学」高橋真希：遺跡から出土した日本のハキモノ、吹田市での例も多数。／6月4日（土）「藤ノ木古墳－金ピカのくつ－」藤原 学：貴族がはいたハキモノ、葬礼用か実用か。／6月5日（日）「仏像の足もと」滝沢幸恵：仏像の足の特徴はなにか、種々の作例をもとにみていきます。

ワークショップ

5月7日（土）「下駄をアートしよう」三宅恭子さん（古代布研究家）：下駄をキャンバスと考え、鼻緒や絵でかざってみましょう。／5月21日（土）・22日（日）「飛騨のはきものとわら細工」沼田富男さん（わら細工師）、柏木賢一さん（飛騨・世界生活文化センター学芸員）：わら細工の名人が指導します。飛騨の民俗資料をスライドで紹介します。

市民博物館講座

市民によって企画された、ボランティアによる講演や実演です。

4月27日（水）「鍼灸の挑戦－足－」藤本運風さん（藤本漢祥院院長）：東洋医学は「足」をどう位置づけているか、経絡とツボを中心に解説します。講演後の特別対談はゲストに佐々木恵雲さん（西本願寺あそか診療所所長）を招き21世紀の医療を考えます。／5月11日（水）「縄文足のスパイラル操法」高木紀美代さん・菊田正治さん（縄文ストレッチインストラクター）：足を揉むことは身体だけでなく心も癒します。ゲストは国際縄文・心導ストレッチ協会会長の倉富和子さんです。／5月18日（水）「外反母趾について」村田紀和さん（協和会病院リウマチセンター部長）、小田忠文さん（協和会病院リハビリテーション部長）：私たちが靴をはくようになって、さまざまな病気に悩まされるようになりました。外反母趾の原因や治療法を探ります。／5月25日（水）「スポーツと靴」東佐井寺小学校の先生と生徒の皆さん：いろんな運動競技にあらわれる動きとそれに適した靴を解説します。／6月1日（水）「バリアフリー－家の中は危険がいっぱい－」上出剛敏さん（株）日建ハウジングシステム設計部長）：長寿社会を迎えて安全な住まいをつくるための対策を考えます。特別対談のゲストは石毛直道さんです。（小山修三）

※スケジュールの詳細はホームページをご覧ください。



吹田市消防本部 レスキュー隊

伴大納言絵詞にあらわれたはきもの



乱緒草鞋 (2種)



緒太草履



高足駄 (下駄)



足駄 (下駄)



塗り足駄 (下駄)



緒太草履



浅沓



「伴大納言絵詞」(中巻) 財団法人出光美術館所蔵



深沓を持つ素足の男



足駄(下駄)



乱緒草鞋



浅沓

貞観8年(866)、応天門が焼亡、のち、これが大納言伴善男の放火と判明、伴一族が流罪となった。この大事件を平安末期に描いたのが伴大納言絵詞です。この絵巻に描かれた「子供のけんか」の場面がここに扱う部分。ありふれた子供のけんかに親が過剰に反応し、相手の子供に暴力を振るう。もう一方の親がその悔しさから、伴善男の放火を告発するという事件の意外な展開に、周囲の人々がまた過剰に反応している。まさにワイドショーの「ニュース」な場面なのです。

画面には平安末期の街を歩く人々の表情がいきいきと描かれています。同時に、衣装から草履、下駄なども細部をおろそかにせず描き込まれており、そこに履物としての資料性も高いようです。

(文・イラスト 藤原妙子)

※はきものの名称は「日本風俗史図録」江馬 務(星野書店 昭和19年)を参照とした。

吹田のはきもの —出土品と祭り—

田下駄

田下駄は稲作用のはきもので、湿田で足が沈まないようするナンパと、代踏^{しろふ}みや緑肥を踏み込むための大足^{おんち}に分けられます。日本最古の田下駄は大阪府八尾市恩智遺跡で出土した約2300年前のナンパで、約2000年前になると大足も出現します。

吹田市垂水南遺跡では古墳時代の大足が14点出土しています。出土した大足は足板のみで、本来は木杵やカンジキのような輪^わ標^{かん}が付いていました。足板の両端の孔は杵材を固定するためのもので、板の中ほどにある3つの孔には下駄のように鼻緒を通したと思われます。孔の無い足板は紐で足や部材を固定したのでしょう。(高橋真希)



大足（垂水南遺跡出土）

板草履

板草履^{いたぞうり}は鎌倉～室町時代の遺跡から出土するはきもので、文献にみえる「板金剛」に相当するとされています。厚さ2～3mmほどの薄板で、左右対称に割れた一対で片足分です。表面には植物性のひもを巻き付けた痕や植物繊維そのものが付着していることもあり、草履の芯^{いくさ}として用いたものです。近世以降は芯材が竹皮や藁草^{わら}に変わり、さらに厚紙となります。板草履は東北～九州にかけて出土していて、中世にはかなり普及していたはきものであったようです。吹田市内では蔵人遺跡で2点、目依遺跡で1点が出土しています。(高橋真希)



板草履（蔵人遺跡出土）

どんじ祭りの稚児の草履

吉志部神社のどんじ祭りでは、用意した御供を行列を組んで神社へ奉納します。その行列で中心的存在である稚児がはく草履は、かかとの部分に二つ輪が尾のように残る独特の形をしています。このような奇妙なはきものは他の祭りでもゲゲと呼ばれ、神に準じる聖なる者がはくことが多く、神を象徴するはきものともいえます。どんじ祭りの稚児も祭りの前日には真菰^{まこも}を敷いた布団で寝て、しめ縄の帯を締めるなどそうした性格が随所にみられる存在です。(藤井裕之)



稚児の草履

特別企画「むかしのくらしと学校」は、むかしの学校の様子や、むかしのくらしを紹介するもので、小学校3年生の社会科副読本「くらしのうつりかわり」の学習内容にあわせた展示です。この展示は、平成11年度から行っており、平成13年度から「はいてみよう」（げたとぞうり）「火打石と火打金で火花をちらそう」「はかってみよう」（台ばかり）などの体験コーナーを設けています。ボランティアや先生の意見を受けながら年々改良しており、今年度は解説文にルビをふったり、むかしの土間・茶の間の再現コーナーを拡張しました。その結果展示室内がすっ

きりして、子どもたちが動きやすくなったとともに、内容もわかりやすくなったと思います。

今回人気のあった体験は「あかり」です。2階の講座室全体を暗くして、あんどん、和ろうそく、石油ランプの説明をし、実際に火を灯してみました。明るさだけでなく油やろうの臭いや立ち上る煙りなども体感できたと思います。子どもたちは、暗闇の中にあかりがポーッと灯るだけで感動したようです。ろうそくに火を灯すと「ハッピーバースデー・・・」と歌い始めたクラスもありました。

会期中、市内36校の小学校のうち、26校が団体見学しました。また、摂津市、豊中市、大阪市など市外から6校も見学に來られました。東佐井寺小学校の1年生は、国語の「たぬきの糸車」の勉強のため糸車と特別企画展を見学をしました。このように、学習内容に合わせて積極的に博物館を利用してほしいと思います。

（望月直子）



むかしのあかり体験



展示風景



やさしいおもちゃ作りと謄写版体験

展示予告

平成17年度秋季特別展

「西村公朝 祈りの造形」(仮題)

会期 平成17年10月4日(火)～12月4日(日) (予定)

仏像彫刻家西村公朝^{こうちよう} (1915-2003) の作品を紹介する展示を今秋開催いたします。当代随一の仏像修理技術者でもあった西村公朝は、あらゆる時代の仏像の特徴を知悉し、優れた技術と深い仏教精神の理解のもと、長年にわたり仏像制作にとりくんできました。仏教の真髄は“慈悲”であり、仏像には“慈悲”の精神の表現こそが大切であるとの考えのもと、儀軌をふまえた上で、芸術家としての創造性を加え、慈悲の精神を内包した独自の作風を築き上げました。常に仏教精神の根本をみつめ、卓越した技術を駆使して生み出された作品は、見る人の心を強く魅了してやみません。

吹田市立博物館にあっては、平成4年の開館より11年余の長きにわたり館長を務められ、また、講演会やテレビ、著書を通じての仏教美術の啓蒙・普及活動にも多大な功績を残されました。この展示では、氏への感謝と敬意を捧げ、その珠玉の作品を展観するものです。

(滝沢幸恵)



ふれ愛観音像

交通案内

- JR岸辺駅下車徒歩25分
- JR吹田駅・阪急吹田駅から
桃山台駅前ゆき、山田樫切山ゆきバス「佐井寺北」下車徒歩10分
千里中央ゆき、阪急山田ゆきバス「岸部」下車徒歩10分
- JR吹田北口から
五月が丘南ゆきバス「五月が丘西」下車徒歩7分
- 阪急南千里駅から
JR吹田ゆきバス②、③系統「佐井寺北」下車徒歩10分
- 車でのご来館は五月が丘・佐井寺方面からお願いします。

- 開館時間
午前9時30分～午後5時
- 休館日
月曜日、祝日の翌日
12月28日～1月4日
<http://www.suita.ed.jp/hak/>



吹田市立博物館だより 第24号 平成17年(2005)3月31日発行
吹田市立博物館 〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号
TEL.06 (6338) 5500 FAX.06 (6338) 9886